

小規模事業者

# 経済動向調査報告書

<常陸大宮市>

2024年7月～9月期

常陸大宮市商工会

## 1. 目的

常陸大宮市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

## 2. 方法

市内の製造業、建設業、商業（卸売業・小売業）及びサービス業の小規模事業者から計 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

## 3. 調査事業者

業種 売上規模	製造業	建設業	小売・卸売業	サービス業	合計
～1,000 万円	0 社	0 社	1 社	2 社	3 社
～3,000 万円	1 社	1 社	2 社	1 社	5 社
～1 億円	1 社	1 社	0 社	1 社	3 社
～3 億円	1 社	2 社	1 社	0 社	4 社
合計	3 社	4 社	4 社	4 社	15 社

## 4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、利用客数、仕入単価、在庫数、採算（経常利益）、従業員、外部人材、資金繰り及び景況感を聴取し、DI 値を業種別・売上規模別に比較。
- ② 設備投資状況の調査。
- ③ 現在認識している問題点・経営課題について業種別・売上規模別を調査。

### DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

## I. DI 分析

表1：2024年7月～9月のDI値（業種別）

	合計	製造業	建設業	小売・卸売業	サービス業
売上高	-53.3%	-33.3%	-75.0%	-100.0%	0.0%
販売単価	-20.0%	33.3%	-50.0%	0.0%	-50.0%
利用客数	-53.3%	-33.3%	-50.0%	-100.0%	-25.0%
仕入単価	-73.3%	-33.3%	-75.0%	-75.0%	-100.0%
在庫数	6.7%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
経常利益	-53.3%	-33.3%	-50.0%	-75.0%	-50.0%
従業員	6.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
外部人材	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
資金繰り	-46.7%	0.0%	-50.0%	-75.0%	-50.0%
景況感	-46.7%	-33.3%	-50.0%	-75.0%	-25.0%

表2：2024年7月～9月のDI値（売上規模別）

	合計	～1千万円	～3千万円	～1億円	～3億円
売上高	-53.3%	0.0%	-80.0%	-66.7%	-50.0%
販売単価	-20.0%	-33.3%	-40.0%	-33.3%	25.0%
利用客数	-53.3%	-33.3%	-60.0%	-33.3%	-75.0%
仕入単価	-73.3%	-100.0%	-80.0%	-66.7%	-50.0%
在庫数	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
経常利益	-53.3%	-66.7%	-60.0%	-66.7%	-25.0%
従業員	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
外部人材	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	-25.0%
資金繰り	-46.7%	-66.7%	-60.0%	-33.3%	-25.0%
景況感	-46.7%	-33.3%	-80.0%	-33.3%	-25.0%

- 前回（2024年4月～6月）調査に比べ、全体的に業況は小康状態と言える。業種別だと、製造業が再び改善傾向にある一方で、小売業が悪化している様子が窺える。特に、仕入価格高騰の影響が増大している様子が窺える。
- 全体としては、利用客数と仕入単価が悪化しているのが目立つ。これが今後どのように売上高や利益など業績に影響していくかが懸念される。
- 仕入単価については、全業種で悪化傾向にある。利用客数については、小売・卸売業で顕著に低下しており、売上高の低下の主因になっている様子が窺える。小売・卸売業の業況悪化は深刻で、資金繰りにまで及んでいる。
- 販売単価については、前回影響が小さかったサービス業において大幅に悪化しており、仕入価格の

高騰が加速している状況下、それを販売価格に転嫁できなくなっている様子が窺える。

- 売上規模別においては、売上規模 1,000 万円以下の小規模な企業において仕入単価が顕著に悪化している。また、資金繰りや景況感も著しく悪化しており、仕入単価高騰の影響が深刻さを増している様子が窺える
- また、経常利益の悪化も比較的売上規模の小さい企業ほど悪化している。

## II. 設備投資の状況

- 2024 年 7 月～9 月にかけて設備投資した企業は、なかった。
- 未だ業況が回復せず、設備投資の機運が高まってないと推測できる。

### III. 課題意識調査

図1 2024年7月～9月の課題意識（業種別）

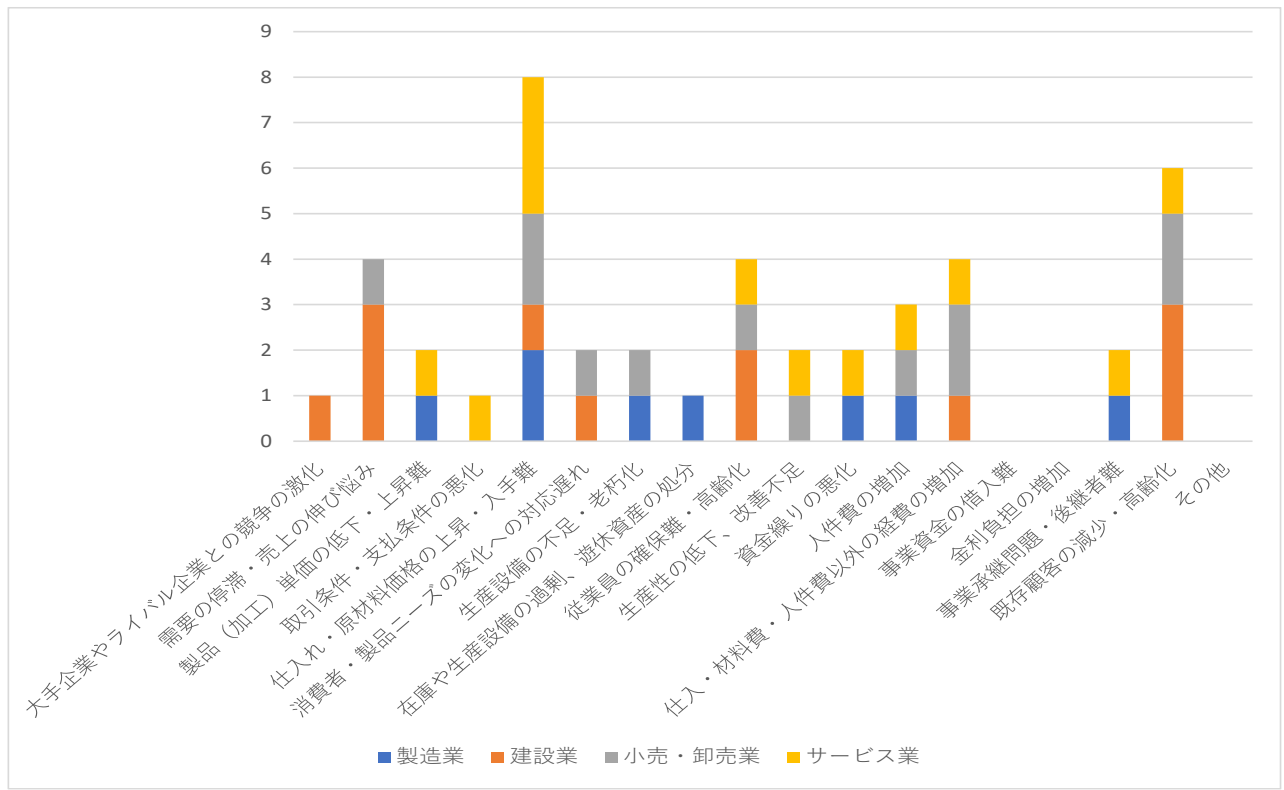
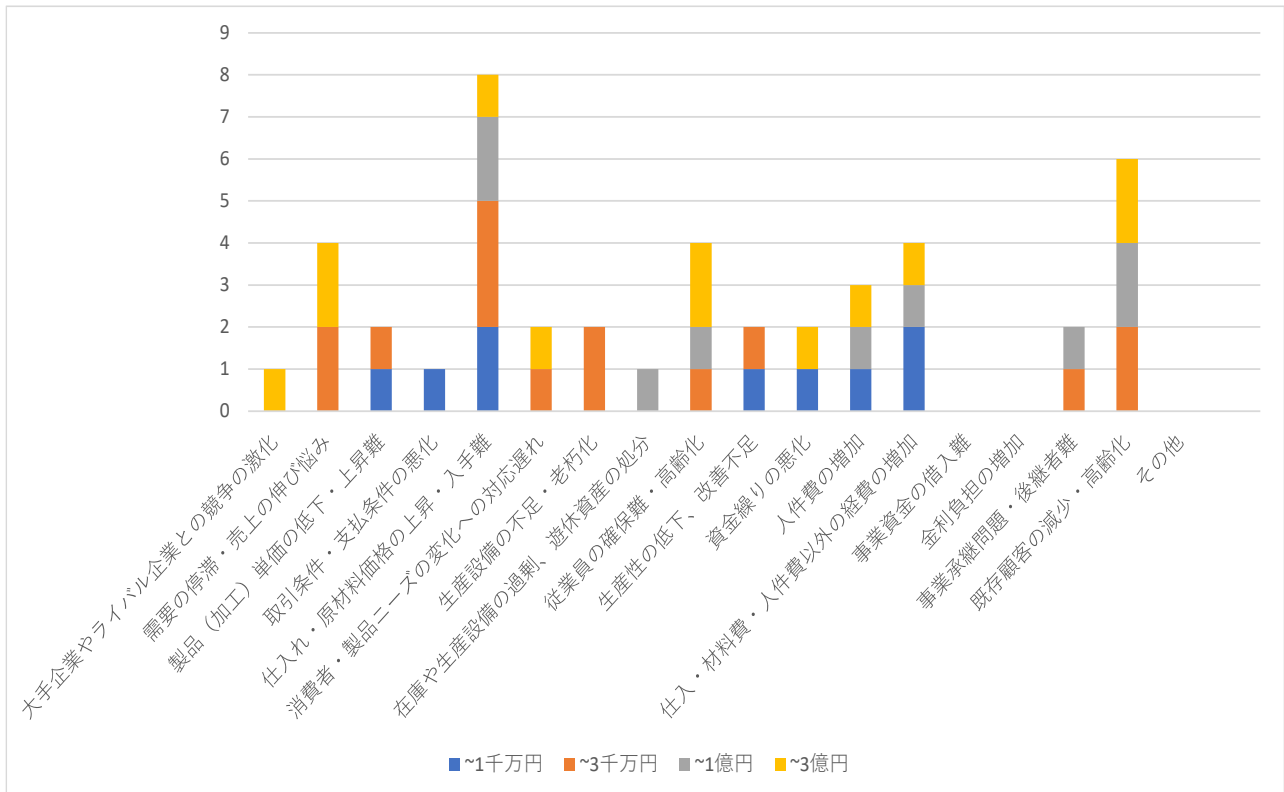


図2 2024年7月～9月の課題意識（売上規模別）



- 仕入れ・原材料価格の上昇・仕入難は、相変わらず高止まりしているが、前回に引き続き少しずつ改善している様子も窺える。
- 需要の停滞・売上の伸び悩みが少しずつ改善してきている様子が窺える。また、既存顧客の減少・高齢化についても歯止めがかけられつつあり、コロナ禍の停滞から徐々に回復しつつある様子も窺える。
- 需要の停滞・売上の伸び悩みについては、特にサービス業と製造業で解消傾向にある。
- 一方で、製品（加工）単価の低下・上昇難、取引条件・支払条件の悪化や人件費の増加など経済活動の活発化に伴う新たな課題が出てきている様子が窺える。特に、物価高騰・賃金アップ等を背景に収益性圧迫が懸念される。
- 売上規模で見ると、1,000万円以下の企業において、製品（加工）単価の低下・上昇難、取引条件・支払条件の悪化、仕入れ・原材料価格の上昇・入手難、人件費の増加、その他の経費の増加など収益を圧迫する問題が顕著に増えている様子が見受けられる。規模の小さな企業に皺寄せが来ている様子が窺える。

以上